授業　廿日市市立大野中学校

研修グループ　Aグループ

呉市立昭和北中学校

東広島市立高屋中学校

江田島市立三高中学校

府中町立府中中学校

**近代の日本と世界**

**〜近代とはどのような時代だったのだろうか～**

中項目名

**多面的・多角的に考察する力　　自分の考えを表現する力**

**本中項目で育成する資質・能力**

**中項目について**

　本単元は、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編「歴史的分野」のＣ「近現代の日本と世界」（１）「近代の日本と世界」を受けて構成した単元であり、次のように記されている。

（１）近代の日本と世界

　課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識を身に付けること。

（ｱ）欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き

（ｲ）明治維新と近代国家の形成

（ｳ）議会政治の始まりと国際社会との関わり

（ｴ）近代産業の発展と近代文化の形成

（ｵ）第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現

（ｶ）第二次世界大戦と人類への惨禍

イ　次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

（ｱ）工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、アの（ｱ）から（ｶ）までについて近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること。

（ｲ）近代の日本と世界とを大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現すること。

本中項目は、19～20世紀前半までの我が国の歴史を扱う。この時代は、江戸幕府の鎖国体制から一転して、「国際社会の一員としての日本」を否応なく迫られることとなった時代であり、同時に、現代の我が国の政治体制や社会の仕組み、国際情勢に多大な影響をもたらした時代である。

　本研究では、本中項目を二分し、(ｱ)から(ｴ)を「中項目前半」、(ｵ)(ｶ)を「中項目後半」と位置付け、「中項目前半」は「我が国における近代国家形成の過程」を、「中項目後半」は「国際協調と国際平和の実現に向けて」を主題として単元計画を作成している。「中項目前半」については、18〜19世紀後半に欧米諸国が近代化し、市場や原料供給地を求めアジアへ進出していくという国際情勢の中で、欧米主導の国際システムに参加するため、我が国もいち早く近代化を進め、国際社会の一員となることが目指されたことや、様々な国内改革や憲法の制定、日英同盟や日清・日露戦争の勝利等によって、我が国の国際的な地位が向上し、アジアでは中国に代わって大きな影響をもったこと等を取り扱い、「工業化の進展と政治や社会の変化」、「明治政府の諸改革の目的」、「議会政治や外交の展開」、「近代化がもたらした文化への影響」などに着目して課題（問い）を設定することで、我が国の近代国家成立の過程を多面的・多角的に捉えさせ、理解することを主なねらいとしている。「中項目後半」については、我が国が帝国主義の考えのもと、当時の国際情勢や他国との条約、我が国の権益等を守るべく二度の世界大戦へ参戦し、この大戦が人類全体に多大な惨禍を及ぼすこととなったことについて取り扱う。その際、第一次世界大戦後に国際平和への努力がなされたこと、軍部の台頭から戦争までの経過等を学習する過程で、「経済の変化の政治への影響」、「戦争に向かう時期の社会や生活の変化」、「世界の動きと我が国との関連」などに着目して課題（問い）を設定することで、刻々と変化する国際情勢の中で、恒久的に「国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であることに気付かせる」ことに主眼を置く。

本中項目では、「我が国の歴史の大きな流れ」を「各時代の特色を踏まえて理解する」という歴史的分野の学習の基本的なねらいを踏まえ、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目したり、「国際情勢や国際社会の一員としての日本」や、「その時代に生きた人々」といった様々な視点や立場から歴史的事象について考察し、表現する活動等を通して、多面的・多角的に、「近代とはどのような時代だったのか」について捉えさせる。また、本中項目の学習を通して、現代社会とのつながりに気付くことで、生徒自身がより良い社会を自ら考え、「持続可能な社会」の実現に向けて「歴史を学び、これからをどう生きていくか」という本質的な問いに迫ることができる。

**中項目の目標**

◯近代の日本の大きな流れを、世界の動きとの関連を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を読み取り、効果的にまとめる技能を身に付けることができる。　【知識及び技能】

◯工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現できる。　　　　　　　　　　　　　【思考力、判断力、表現力等】

◯近代の日本と世界に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【学びに向かう力、人間性等】

**中項目の評価規準**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ア　知識・技能 | イ　思考・判断・表現 | ウ　主体的に学習に  　取り組む態度 |
| ①　欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。  ②　開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解している。  ③　自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などを基に、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的な地位が向上したことを理解している。  ④　我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解している。  ⑤　第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動き、我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解している。  ⑥　経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解している。 | 1. 工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、アの（ｱ）から（ｶ）までについて近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。   ②　近代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 | ①　近代の日本と世界について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。  ②　学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。 |

**本質的な問い・中項目を貫く問い・個別の問い（中項目前半）**

【本質的な問い】

|  |
| --- |
| 歴史を学び、これからをどう生きていくか。 |

【中項目を貫く問い】

|  |
| --- |
| 近代とはどのような時代だったのだろうか。  （前半）欧米諸国との関わりの中で、日本の国家と社会はどのように変化したのだろうか。  （後半）二度の世界大戦は、日本にどのような影響を与えたのだろうか。 |

【個別の問い】（中項目前半）

（　　　：小単元を貫く問い　　★：多面的・多角的に考察する力を育成するための問い　）

|  |  |
| --- | --- |
| 小単元１ | 【欧米における近代化の進展】  欧米諸国は、なぜ急速に発展したのだろうか。  ○イギリスやアメリカ、フランスなどの市民革命によって、社会はどのように変化したのだろうか。  ○市民革命を通して、人々の意識はどのように変化したのだろうか。  ○ロシアとアメリカは、どのように発展していったのだろうか。  ★産業革命によって、人々の生活や世の中はどのように変化したのだろうか。 |
| 小単元２ | 【欧米の進出と日本の開国】  なぜ日本は政治体制を変えたのだろうか。  ○中国とインドは、なぜ欧米諸国の植民地になったのだろうか。  ○開国をしたことで、日本はどのように変わっていったのだろうか。  ★開国をしたことで得した人、損した人はそれぞれ誰だろうか。  ○江戸幕府が滅ぶことになった決定的な出来事は何だったのだろうか。 |
| 小単元３ | 【明治維新】  明治政府は、どのような国を目指したのだろうか。  ○明治政府が目指した社会は、どのような社会だったのだろうか。  ○明治政府が行った三大改革は、どのような成果をもたらしたのだろうか。  ★富国強兵と文明開化によって、人々の生活はどのように変化したのだろうか。  ○明治政府は、諸外国とどのような関係を築きたかったのだろうか。  ○日本の領土は、どのようにして決まったのだろうか。  ○領土をめぐる問題は、なぜ起こったのだろうか。  ○明治政府に対して、人々はどのような不満をもったのだろうか。  ○大日本帝国憲法は、日本にどのような影響をもたらしたのだろうか。 |
| 小単元４ | 【日清・日露戦争と近代産業】  近代化を進めた日本は、欧米諸国やアジアの国々とどのような関係を築いたのだろうか。  ○日本と欧米諸国は、どのような関係を結んだのだろうか。  ○日清戦争は、日本と清にどのような影響を与えたのだろうか。  ○日露戦争は、日本とロシアにどのような影響を与えたのだろうか。  ★日本の近代化は、周辺諸国にどのような影響を与えたのだろうか。  ○産業革命によって日本はどのように変わったのだろうか。  ○明治時代の文化が発展した背景には何があったのだろうか。 |

**指導と評価の計画（中項目前半）**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 小単元名 | 小単元を貫く問い | まとめ例 |
| 導入 |  | 中項目（前半）を貫く問い  「欧米諸国との関わりの中で、日本の国家と社会はどのように変化したのだろうか。」 |  |
| 小単元１ | 欧米における  近代化の進展 | 欧米諸国は、なぜ急速に発展したのだろうか。 | 啓蒙思想によって自由・平等の考えが広まり、市民革命によって絶対王政が崩壊し、国民主権の近代国家が成立したから。また産業革命により工業化が大きく進展し、資本主義社会が成立し、国の経済が大きく成長したから。 |
| 小単元２ | 欧米の進出と  日本の開国 | なぜ日本は政治体制を変えたのだろうか。 | 幕末の緊迫する国際情勢のなかで、日本の独立と平和を維持していくために、これまでの幕藩体制ではなく、天皇を中心とした中央集権制の政治体制を作ろうとしたから。 |
| 小単元３ | 明治維新 | 明治政府は、どのような国を目指したのだろうか。 | 欧米諸国に並ぶ軍事力や経済力をつけるため、近代化を進め、中央集権国家を目指した。 |
| 小単元４ | 日清・日露戦争と近代産業 | 近代化を進めた日本は、欧米諸国やアジアの国々とどのような関係を築いたのだろうか。 | 大日本帝国憲法の制定など、様々な国内改革を行うとともに、日英同盟や日清・日露２つの戦争の勝利等によって国際的な地位を高め、不平等条約の改正に成功し、列強の仲間入りを果たした。アジアの国に対しては、中国に変わって影響力をもった。 |
| まとめ | 小単元ごとに「小単元を貫く問い」についてまとめを行い、その記録を参考に中項目（前半）を貫く問いについてまとめさせる。  【まとめ例】  欧米諸国の圧力の中で開国した日本は、大日本国憲法の制定や徴兵制度の整備など、国内の政治体制や軍を近代化することによって、国際的な地位を高め、欧米諸国と対等な関係を築いた。その中で学問・教育・文化・芸術などを基に国民生活も大きく向上したが、一方で国民の人権は制限され、さらに欧米諸国と同様に労働問題・社会問題等の課題が生まれた。 | | |

**小単元について**

本小単元は、本中項目「（１）近代の日本と世界」の「ア」の「（ア）欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き」を受けて設定している。

小単元のねらいは以下のとおりである。

|  |
| --- |
| （ア）欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き  欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解すること。 |

（内容の取扱い）

|  |
| --- |
| ア　（１）のアの（ア）の「市民革命」については、政治体制の変化や人権思想の発達や広がり、現代の政治とのつながりなどと関連付けて、アメリカの独立、フランス革命などを扱うこと。「アジア諸国の動き」については、欧米諸国の進出に対するアジア諸国の対応と変容という観点から、代表的な事例を取り上げるようにすること。 |

本小単元において、イギリスの産業革命を取り上げることで、資本主義社会が成立したことや労働問題・社会問題が発生したことに気付かせる。市民革命については、アメリカの独立、フランス革命を扱うことで、政治的な対立と社会の混乱、そこで生じた犠牲などを経て近代民主政治への動きが生まれたことに気付かせる。また、アジア諸国の動きについては、中国の動きを取り上げることで、欧米諸国の進出に対するアジア諸国の対応と変容に気付かせる。

これらの学習を通して、欧米諸国が市場や原料供給地を求めてアジアへ進出したことを理解するとともに，日本の政治や社会に与えた影響などを考察することができる。また、社会的事象について考察する場面では、複数の立場から考察を行うことに適した単元であり、多面的・多角的に考察する力を養うことができると考える。

**生徒の実態**

本学級の生徒を対象に事前に行ったアンケート（令和5年10月2日）の結果は次の通りである。

|  |  |
| --- | --- |
| 質問項目 | 肯定的回答 |
| 社会科（歴史）の授業は好きですか。 | 45.4％ |
| 社会科の授業でペアやグループで話し合い活動（自分の意見を発表したり、人の意見のいいところを取り入れて考えを深めたり）をすることは得意ですか。 | 63.6％ |
| ICT（Chromebookやgoogleのドキュメント・スライドなど）を使って調べたり意見をまとめたりすることは、自分の理解を深めたり様々な考え方を知るために役立っていると思いますか。 | 97％ |

本学級の生徒は、社会科や歴史の授業に対して苦手意識を持っている生徒が半数近くいる。また、ペアやグループでの話し合い活動に苦手意識を持っている生徒が４割近くいる。

日常的な学習の様子からは、社会科や歴史などの専門用語や社会的事象の意味を理解することに苦手意識を持っている生徒や、 自分の意見を述べることが苦手なため、積極的に発表できず、他の生徒の意見を聞くだけになっている生徒がいることが分かる。そのため、班やグループによって、話し合い活動の深まりに差が生じている実態がある。

　一方で、歴史的分野では、歴史上の人物や出来事について、「なぜこの人物はこのような行動をとったのか。」「なぜこの出来事が起こったのか。」など、人物の考えや出来事の背景を熱心に考える生徒が多いため、課題設定を工夫することで、生徒の関心を高め、主体的な学びへとつなげられると考える。

**小単元の指導**

　本小単元では、欧米諸国で産業革命が起こり、アジアに進出するまでの流れを学習する。その中で、「資本家」と「労働者」など、様々な立場や対立する考えを持つ人々について考察する場面を設定することができる。本学級の生徒の「人物の考えや出来事の背景を熱心に考える」という強みを生かして、課題を生徒が捉えやすい内容にすることで、主体的に学ぶことができるようにする。

　具体的には、「技術革新による人々の生活水準の向上」や「資本主義経済の成立による貧富の差の拡大」などの観点から、産業革命が、人々にどのような影響があったのかを考えさせる。良い影響には「産業技術や交通・工業の発展・向上」「資本主義の成立による経済の発展」などがあり、一方で悪い影響には「工場の煙や排水の影響による環境汚染や感染症の流行」「児童労働や長時間労働などの労働問題」「資本家と労働者間の貧富の差の拡大」などが挙げられる。また、資料にはグラフや文章の他にも、風刺画や当時の風景を描いたものなど、多様な資料を活用することで、文章やグラフの読み取りが苦手な生徒でも取り組めるようにする。また、資料は１枚のワークシートとして提示し、「良い影響」と「悪い影響」が読み取れる資料を混在する配置で生徒に配布する。あえて区別しないことで、同じ資料でも生徒によって捉え方や着眼点が異なる状況を生み出し、話し合い活動を活性化させることを狙う。また、意見交流をするにあたって、社会科や歴史的分野の専門用語を使用することを意識させることで、基本的な知識の定着を図る。また、教科書の言葉をそのまま使うのではなく、自分の言葉として話すことも意識させたい。意見交流をする中で他者の意見を取り入れたり、自分の意見と比較させたりすることで、さらに自分の意見を深め、新しい意見や考えを生み出すことにつなげ、社会的な見方・考え方を育てていきたい。意見交流の際、ICT機器（Google ChromebookのJamboard機能）を使用し、積極的に意見を発表することが難しい生徒も自由に意見が出せるようにアプローチする。

小単元１「欧米における近代化の進展」（全７時間）の単元計画

（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 小単元を貫く問い「欧米諸国は、なぜ急速に発展したのだろうか。」 | | | | | | |
| 次 | 学習内容（時数） | 評　　　　　価 | | | | |
| 知 | 思 | 態 | 評価規準 | 評価方法 |
| 一 | 導入  〇小単元を貫く課題を設定する。  ≪発問≫  欧米諸国の近世と近代について、共通点や相違点を出し合いながら、単元を通じた課題を設定しよう。  →  欧米諸国は、なぜ急速に発展したのだろうか。 |  |  | ● | ウ① | ・授業ノート  ・ワークシート |
| 二 | 〇市民革命が社会にもたらした変化を理解する。（２時間）  ≪発問≫  「イギリスやアメリカ、フランスなどの市民革命によって、社会はどのように変化したのだろうか。」  →専制政治によって苦しんでいた国民が、啓蒙思想の影響等により、自由や平等、国民主権等の人権を求める運動を起こし、専制政治から議会政治へと政治のあり方が変わった。 | ● |  |  | ア① | ・授業ノート  ・ワークシート |
| 三 | 〇市民革命が起きたことで、国民意識が高まったことを理解する。（１時間）  ≪発問≫  「市民革命を通して、人々の意識はどのように変わっていったのだろうか。」  →人々が身分や地域の違いをこえてまとまろうとする動きが生まれるとともに、教育の普及や政治への参加等を通じて、国民意識が高まっていった。 | ● |  | **【公開する時間（本時）】**  　○太い線（1.5ｐｔ）で囲む。 | ア① | ・授業ノート  ・ワークシート |
| 四 | 〇ロシアとアメリカが発展した過程を理解する。（１時間）  ≪発問≫  「ロシアとアメリカは、どのように発展していったのだろうか。」  →工業化が進み、貿易による利益と領土拡大を目指してアジアへの侵攻を行い、発展していった。 | ● |  |  | ア① | ・授業ノート  ・ワークシート |
| 五 | 〇産業革命がもたらした変化を資料から読み取り、人々の生活や世の中にどのような影響を与えたかを考え、自分の言葉で表現する。（１時間）[本時]  ≪発問≫  「産業革命によって、人々の生活や世の中はどのように変化したのだろうか。」  →産業革命により、国内の技術革新が進み、資本主義経済の確立や蒸気機関による大量生産など、産業の仕組みが発展していった。また、自由な生産と競争により利益を拡大する資本主義の仕組みが広がった。一方で、労働問題や環境問題が起こった。 |  | 〇 |  | イ① | ・発言  ・ワークシート  ・フォーム |
| 六 | 〇小単元の振り返りを行う。（１時間）  ≪発問≫  「欧米諸国は、なぜ急速に発展したのだろうか。」  →【B評価】  啓蒙思想によって自由・平等の考えが広まり、市民革命によって絶対王政から国民主権の近代国家が成立したから。また産業革命により工業化が大きく進展し、資本主義社会が成立し、国の経済が大きく成長したから。  　【A評価】  B評価の内容に加え、市民革命や産業革命の負の側面も踏まえる等、多面的・多角的に欧米諸国の近代化を捉えることができている。 | 〇 |  | 〇 | ア①  ウ② | ・評価問題  ・ポートフォリオ  資料 |

**本時の目標**

〇工業化の進展と政治や社会の変化に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。　　　　　　【イ　思考力・判断力・表現力等】

**本時の学習**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 展  開 | 学習活動 | ◯指導上の留意点  ●努力を要する状況と判断される  児童生徒への手立て | ◇評価方法 |
| 導入 | １ 既習事項の確認  ２ 本時の学習内容の確認  めあて  産業革命によって、人々の生活や世の中はどのように変化したか考えよう。 | ◯前時の内容「ロシア革命」と「南北戦争」で国内の政治や人々の生活がどのように変化したのか確認する。 |  |
| 展開 | ３ 産業革命の概要について確認する。  ・イギリスで産業が発達し、産業革命が始まったこと。 | ◯産業革命の詳細については資料に記載し、生徒が主体的に調べられるようにする。  ●電子黒板で画像などの視聴覚資料を活用することで、資料の内容をつかみやすくする。 |  |
| ４ 産業革命が当時の人々にとってどのような変化があったのか、資料を基に考える。  【良い影響の資料】  ・産業技術の発展（現在にもつながる技術）。  ・交通手段の発達による移動距離の増加。  ・イギリスをはじめ、産業革命が起こった国全体の発展。  ・発展した国同士で競争による、利益の向上。  【悪い影響の資料】  ・資本家と労働者間の貧富の差の拡大。  ・環境問題。  ・感染症の流行。  ・労働問題。 | ◯ワークシートは「良い影響」「悪い影響」が読み取れる資料を混在させることで、生徒自身が「良い」「悪い」を判断できるようにする。  ◯意見に偏りが出ないよう、風刺画・グラフ・年表等、様々な資料を用意することで、交流を活発化させる。  ●話し合い活動が難しい生徒は、気付きや意見をワークシートにメモさせておく。  ●資料の読み取りが難しい生徒や意見がもてない生徒は、グループのメンバーの意見を参考にさせる。  ●児童労働の資料を提示する際、「自分がこんな状況だったらどう思うか。」と問うことで、当時の状況を考えやすくする。 | ◇ワークシート  （資料を基にした意見・気付き） |
| ５ 現代社会と比較しながら、産業革命によって、人々の生活や世の中がどのように変化したか、学習班に分かれ、それぞれの意見を交流させる。 | ◯ChromebookのJamboard を使用して、グループ内での意見が深まるようにする。  ●話し合いの流れ（司会進行表）を用意しておき、それに沿って進めさせる。 | ◇発言内容  （資料を基にした話し合い・全体発表） |
| ６ 交流の結果を全体で共有する。 | 【生徒の発言例】  技術革新や国全体が豊かになった反面、労働者と資本家の間で貧富の差が生じたり、産業革命が起こっていない国との間での格差が出たりした。また、工場を稼働させたり蒸気機関を使用したりすることで大気汚染や水質汚濁が起こるなどの問題も出てきた。産業革命は、現在も続く労働問題を生み出してしまったので、悪い影響を大きく与えたと思う。 |  |
| まとめ | ７ ５・６で話し合った内容や他の人の話を参考にしながらフォームでまとめを書く。  ８　まとめを交流する。  ９　次時の学習の見通しをもつ。  「負の側面があるのに、なぜ産業革命は続いたのだろうか。」 | ●まとめの型を用意しておくこと　で、意見を示しやすくする。  ●フォームや板書を残しておくことで、他者の意見を参考にして、自分の意見を書きやすくする。  【まとめの例】  ・産業革命は、欧米諸国の経済や工業の発展に貢献したが、イギリス等で貧富の差が拡大し、労働環境が過酷なことで人々が苦しんだ結果となったため、資本家や国にとっては裕福になる機会であったが、労働者にとっては自分たちの生活が悪くなっていった。  ・産業革命は、労働者に重い負担がかかるという側面もあるが、国としては発展したので、全体として見た時に必要な変化だった。  ◯意図的な指名を行うことで、良い影響、悪い影響の両面をおさえる。 | ◇まとめ（話し合いを基にした自分の考え） |

|  |
| --- |
| めあて　産業革命によって、人々の生活や世の中はどのように変化したか考えよう。  まとめ　欧米諸国の経済や工業は大きく発展したが、人々の間では貧富の差が拡大し、  環境汚染が広がるなど、負の側面もあった。  　　　　⇒それでも産業革命が続いたのはなぜなのか？ |